

# 富士市中小企業景況調査結果

令和元年度第1四半期【平成31年4月～令和元年6月】

富士商工会議所調べ

## ◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。  
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、200事業所(回収率68.5%)を対象に、「平成31年4月～令和元年6月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

### DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、  
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…平成31年1月～3月 今期…平成31年4月～令和元年6月 来期…令和元年7月～9月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で表し、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

## ◇ 今期調査の概況 ◇

主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲23.9	→	▲24.0 (▲18.4)	→	▲26.5
売上	▲13.0	↗	▲7.4 (▲4.4)	→	▲10.5
採算	▲28.7	↗	▲22.8 (▲26.3)	→	▲22.2

今期調査では、全産業合計の売上・採算DIともに上昇、業況は弱含みの横ばいとなった。来期の予測については、前回調査の来期予測と同様、全産業合計の業況・売上・採算DIともに横ばいの見込みとなった。

主要DIを産業別にみると、製造業の前期主要DIは全て下降であったが、今期は全て緩やかな上昇となった。しかし、貿易摩擦の影響や世界経済の先行き不透明感により、産業用機械器具・自動車関連・再生资源・製紙原料等の卸売業の低調感があるほか、建設業では、消費税の駆け込み民間工事が堅調に推移する一方、深刻な人手不足による受注機会の喪失や人件費・資材価格の高止まりの影響が続いている声もある。食品関連(製造・小売業)では、10連休となったGWの影響で消費が伸びたが、根強い消費者の節約志向があり、連休明けから消費が落ち込み、今後原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、消費増税の影響など先行きへの慎重なコメントが多数寄せられていた。

経営上の問題点では、製造業は「人材不足/設備老朽化」、建設業は「商品、原材料仕入れ価格の上昇」、卸売業が「売上減に伴う利益減」が1位となった。小売業は「売上減に伴う利益減」、サービス業は「設備老朽化」が1位となった。

## ◇ 全産業の動き ◇

**〔業況のDI〕** 製造業、サービス業は上昇。建設業は横ばい。卸売業、小売業は下降。

来期は、卸売業、小売業ともに上昇を予想。製造業は横ばいを予想。建設業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲31.6	↗	▲23.1 (▲5.4)	→	▲23.6
建設業	0.0	→	0.0 (0.0)	↘	▲16.6
卸売業	▲22.8	↘	▲50.0 (▲14.3)	↗	▲27.3
小売業	▲23.6	↘	▲55.0 (▲40.0)	↗	▲45.0
サービス業	▲40.0	↗	▲7.7 (▲40.0)	↘	▲26.9
全産業	▲23.9	→	▲24.0 (▲18.4)	→	▲26.5

**〔売上高のDI〕** 製造業、建設業は上昇。小売業、サービス業は横ばい。卸売業は下降。

来期、卸売業は上昇。建設業、サービス業は横ばいを予想。製造業、小売業はともに下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲26.3	↗	▲7.7 (0.0)	↘	▲21.1
建設業	0.0	↗	10.0 (17.9)	→	6.7
卸売業	▲18.2	↘	▲27.3 (▲4.8)	↗	▲4.8
小売業	▲23.5	→	▲20.0 (▲33.4)	↘	▲40.0
サービス業	4.0	→	0.0 (▲10.4)	→	4.0
全産業	▲13.0	↗	▲7.4 (▲4.4)	→	▲10.5

**〔採算のDI〕** 製造業、建設業は上昇。卸売業、サービス業は横ばい。小売業は下降。

来期は、製造業、卸売業は上昇を予想。建設業、小売業、サービス業は下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲50.0	↗	▲33.4 (▲37.9)	↗	▲15.8
建設業	▲10.7	↗	0.0 (▲10.7)	↘	▲10.0
卸売業	▲28.6	→	▲31.9 (▲23.8)	↗	▲22.8
小売業	▲25.0	↘	▲35.0 (▲42.8)	↘	▲50.0
サービス業	▲19.2	→	▲16.0 (▲16.7)	↘	▲24.0
全産業	▲28.7	↗	▲22.8 (▲26.3)	→	▲22.2

## ◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

### 【製造業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙』…「脱プラスチックで紙製ストローなど話題はあるが、コスト等の問題があり、プラスチックからの切替えは進まず、環境への意識を欧州並みに高める必要がある。」との声。

『紙加工』…「環境に配慮した製品（原料）への流れがあるため、業界全体が変わってくると思われる。人手不足は解消されないため、省力化や自動化等で対応していかざるを得ない状況である。」「原材料の仕入れ価格が高止まりしている。為替の変動により原材料費の調達コストに大きく影響する。」「家庭紙については、依然好調である。PPC紙（コピー用紙）は、各メーカー縮小等で需給バランスはタイトになり、生産の大幅な動きは無くなる」とのコメント。

『機械器具』…「業界全体やや下降傾向である。客先より取引量について3年間の見通しが不透明との回答であった。」「親会社がグローバル生産に向けた生産管理システムを導入、これにより生産遅延が3ヶ月以上続き、売上に大きく影響した。」とのこと。

『機械部品加工』…「工作機械向けの受注は若干減少しているが、板金機械・プレス機械向けの受注は引続き増加傾向にある。米中通商交渉が進まず、EUを含めた世界情勢が日本経済にも影響するため、今後の見通しは不透明と思われる。」との回答。

『金属加工』…「自動車部品の需要は減少気味だが、現時点では大きな変動はない。工作機械部品等は順調に推移しているが、米中貿易摩擦の影響が出始めてくると推察している。」「米中貿易戦争の影響が出始め、明るい材料がない。」「貿易摩擦の悪化を危惧する。」との声。

『自動車部品』…「全体的に需要は減少傾向。しかし、年末から2020年4月までにN社の新型車発表等により、好転に転じる可能性あり。」「建材関連の生産は消費税駆け込み需要が期待されず、更に増税後の受注減を憂慮し、止むを得ず撤退とした。自動車金型関連は、安定性があるため存続。」

「順調に上向いていたが、人手不足の上に働き方改革、海外情勢などの不安から生産量が引き締まる方向にある。人手・人材不足が懸念材料であり、国は、外国人労働者の雇用を考えているが、製造業の自動化がどこまで補うことができるか懸念される。」とのコメント。

『電子機器』…「現況及び今後の見通しは、ほぼ横ばい。オリンピック終了後の経済状況を注視している。」との声。

『繊維加工』…「米中貿易摩擦により需要の減少が見られ、得意先の中国向け製品の輸出が減少。そのため、日本国内での部品生産が減少すると思われる。」との回答。

『印刷資材』…「印刷関連は低迷だが、家庭紙部門は好調。産業機器、ゴムロール、什器備品の需要等は多少増えている。」との回答。

『食品』…「販売取引先の大幅減に伴う売上減。新たな販売ルート・販売先・販売形態の開拓が急務であり、多岐にわたり模索中である。」「沈静化していた販売価格の低下が再発し、過当競争となり競争激化の様相。」「新元号やGWの影響で消費が伸びたが、連休明けから例年以上に消費が落ち込み、今期の平均は昨年並みとなった。今後、増税に対する消費の落ち込みが懸念される。」「駿河湾産桜エビの禁漁に伴い輸入物も高騰しており、値上げせざるを得ない状況。原油・原材料価格・人件費の高騰により価格転嫁が必要となり、収益に影響すると思われる。」「業界の変動は感じられないが、廃業、統合が続く模様。」とのコメント。

『飲料』…「今年が一番茶の単価は過去最低であり、生産量も2割減少した。ドリンク原料としても単価は、500円以下で生産者は先行き不安を募らせている。」との意見。

『その他』…「地域活性化策としての施設や設備等は、個々では難しいため行政等のサポート・指導も必要と思われる。」「付加価値の高い生産活動を行っている企業は忙しい状況にあるが、全般的に厳しい状況下にある企業が多いと感じる。」との回答。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	12.8	51.3	35.9	▲23.1	横ばい
売上高	25.6	41.0	33.3	▲7.7	下降
採算	12.8	41.0	46.2	▲33.4	上昇

## 【建設業】 景気ムード…【低調】

『総合建設』…「需要は拡大しているが、働き方改革による余波が大きく、現状を維持していくのが厳しい。人材不足が解消されない限り、収益率アップは望めない。若年層の離職者数も増加しており、辛い局面である。」「少しずつ官庁工事の発注が出始めている。民間工事は引続き横ばいだが受注額が厳しい状況である。」「一部の流通関連工事のほか民間工事が減少。一方、小規模な改修工事は増加し、人手不足も継続。価格競争と工事単価の下落により、粗利益が減少し減収減益となっている。」との声。

『一般住宅』…「住宅展示場の定期的予約があり、成約まで時間は掛るが需要はある。現在、熟練大工に恵まれているが、弟子がいないので将来的に不安である。」「受注の波があり、来期は若干良くなると期待する。」との回答。

『建設関連』…「人材不足による競争力の低下と過当競争により、現状維持が厳しくなる模様。」「人材・重機不足により受注困難。オリンピック需要が終盤を迎え、仕事量が減少する模様。公共工事の受注機会を増やして頂きたい。」「今後、設備用機器(空調・ダクト・配管)がどのように需要に繋がるかが問題である。各産業投資に期待するが、大型公共投資が縮小となると予見できない。」「業界の動向としては比較的堅調ではないかと感じる。」「消費税に左右される業種のため、駆け込み需要の反動減が出始めている。米中貿易摩擦問題の影響を注視している。」「消費税増税の駆け込み需要の建築物件が増え、それに付随した受注が増加。イベント関連は不変であるが、値引き要請が増加傾向、運搬費の値上げは大きな痛手である。映像設備は既にオリンピック等に向け予約が入りつつある。」とのコメント。

『土木関連』…「造園工事が減少傾向。管理入札は、価格競争により利益が低下する見込み。」「都心ではオリンピックに向けての造園工事が数多くあるようだが、地方では公園工事等の発注は少なく、維持管理(剪定・伐採等)の発注がやや多くなっている。日本庭園等和風の庭工事が減り、材料を取り扱う業者を捜すのに苦慮している。消費税増税で今以上に工事等が減少すると思われる。」「解体工事は大小に係わらず仕事量が多く、廃棄物は需要量が増加しているが、リサイクル品・廃プラスチックの出荷が低迷。建設業の生き残りを図るためには人材育成が重要となる。解体・土木・産廃は、各建設会社・ハウスメーカー共に消費税駆け込み需要で好調と予測。今後は、リサイクル品の出荷、受入先が課題となる。」との回答。「生産設備の老朽化に伴い設備投資を止む無く行っているが、需要は減少。一方同業者が激減しているため、販売量は順調に推移。値上げは未だ適正価格には至っていないが、値上げ交渉により骨材部門を維持したい。」「鋼材確保難に伴う受注見送りが懸念され、鋼材高騰による粗利の減少及び人材不足による人件費の負担増加が予想される。」「大型工事を受注するも人員・人材不足で苦慮している。」との声。

『その他』…「新富士駅での乗降外国人が、増加しているようだ。富士山世界遺産センターの見学目的の人が多く見受けられる。」「店舗閉鎖後の新規出店が見受けられる。又、県外のスポーツジムが出店用地を模索している。」「中小企業の間では人材不足による「採用難」が共通の問題。オリンピック開催に伴い深刻な人材不足が予測され、人件費高騰で経営圧迫の恐れあり。」との声。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	16.7	66.7	16.7	0.0	下降
売上高	36.7	36.7	26.7	10.0	横ばい
採算	23.3	53.3	23.3	0.0	下降

## 〔卸 売 業〕 景気ムード…【厳しい状況】

『**機械器具**』…「機械工業では現状維持、新規設備の受注は期待出来ない。」「4月(期首)～5月は、長期GWにより販売減少。来期はやや好転すると期待する。製品納期遅延を起こしていた大手メーカーが正常になったが、一方では景気の後退感を大に感じる。」「春から夏にかけ、メーカーからの原材料値上に起因する商品価格の値上要請が後を絶たない。地元においても大手の洋紙マシン停止もあり、家庭紙を除き益々厳しくなる模様。」「米中貿易摩擦による国内企業への影響が気掛かり。」「個人経営の廃業が高齢化や病気のため増加、売上減少は止むを得ない。」との回答。

『**建築材料**』…「軽減税率の対策として Air レジ (iOS に対応するタブレットレジ) と Air ペイ (モバイル決済サービス) を導入した。カード決済も対応できるようになったため、売上増加・新規得意先確保に繋げていきたい。」とのコメント。

『**自動車部品**』…「今期は対前年同期比で売上・利益ともに1.5～2.0%程度の伸長であった、仕入・売価ともに1.5%位上昇しているが、努力増よりも自然増と思われる。来期は、車輛の入替えはあっても、保有台数は変わらないので売上・利益ともに前年並みと推測される。」「自動車整備業が廃業等で減少のため、自動車部品・整備機械工具業界としてはマイナス要因である。」との声。

『**紙**』…「ネット通販用ダンボールは好調だが、その他の一般紙器は伸び悩んでいる。洋紙ほど厳しくないものの、板紙もメーカー在庫不足である。このまま低調な流れが続く模様である。」「紙の在庫が製紙メーカー抄造減の影響で不足となっているため、需要>供給が暫く続いている。」との回答。

『**製紙原料**』…「中国の古紙輸入規制の打撃が徐々に効いてきた。日本の古紙価格の下落は、やむを得ないが需給量が余りにも少なすぎる。中国の景気減速も加わり先行き不透明。米中貿易摩擦は根深く、当面中国からのオファーは減少傾向が続くと思われ、国内需要も製品輸出の減少を受け、減産傾向に入った。古紙の余剰感はもっと強くなる様相。」「古紙の輸出価格が大幅下落により業況悪化。」「紙業界は、環境問題によりプラスチック製品から紙への移行の動きがあり、カップ麺の器もラミネート加工紙を使用しているメーカーもあるが、2年後には生分解性プラスチック(自然界に還るプラ)による製品が使用されると紙の需要も一時的になると予測。但し、低コスト面から小ロット製品や中小企業に於いては、紙製品の需要はあると思われる。今後、ニッチ分野を開拓し、知的財産を活かした商品を提案していければ希望があるのではないか。」とのコメント。

『**再生資源**』…「中国経済の低迷により、鉄・非鉄スクラップの輸出が減少。特に下級スクラップが中国の環境問題のため輸出ができない。鉄鋼商品が米中関税問題及び日中貿易問題により、在庫が増加。中国製の低価格鉄鋼商品が日本・アジアに輸出されている。」「中国経済悪化に伴う国内製鉄業の生産悪化。米国大統領の動向により貿易摩擦が激化していることで、日本経済全体に悪影響が及ぶことが懸念される。」との意見。

『**工業薬品**』…「企業の再編・合併等生き残りに係る場面が多い気がする。世界経済の動向により小規模企業にも影響が及ぶので見通しは予見できない。」との声。

『**その他**』…「当市は、紙・パルプ産業やその他の製造業等が減少傾向にあり、富士発のツアーや田子の浦港にクルーズ船を入れるなどの観光振興に力を入れて欲しい。」「マンション・ホテル・スーパーの建設が目立つが、人口に対し供給過多ではないかと危惧している。」「農業も収量より需要的にも安定的に供給できるよう生産技術を高め、良質なものを生産することにより収益力向上に努めているケースがある。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	0.0	50.0	50.0	▲50.0	上 昇
売上高	22.7	27.3	50.0	▲27.3	上 昇
採 算	13.6	40.9	45.5	▲31.9	上 昇

## 【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『各種食料品』…「和菓子販売に於いては季節の新商品を早めに店頭置き、お客様に提供する事が大事だと思う。」との意見。「タピオカブームにより売上増加。今後、人手不足による賃金上昇に繋がる動きが憂慮される。」と回答。

『食料・飲料』…「茶業界全般は不振。一番茶生産に於いては、生葉は減収、価格は荒茶価格の下降で意欲は減退している。当園に於いては、小売専門であるため、良質茶の生産に努めており、消費者照準に合わせた、美味しいお茶を追求している。今後は二極化が進む様相。」「上級茶需要の減少が生産価格の下落に反映している。今後、健康飲料として冷茶の普及から需要を拡大したい。」との声。

『衣料品・呉服』…「消費税増税により価格転嫁ができず益々厳しくなると思う。消費者は安価なものを求め、小規模事業者では大型店には対抗できない。」「全部門に対し売上減少」との見解。

『生花』…「農協主導の生産調整及び後継者不足等による品不足と価格の高止まり、ネットを始めとした販売チャネルの増加などによる専門店離れなど厳しい状況下である。」との意見。

『日用品・雑貨』…「化粧品業界は、訪日観光客の旺盛なインバウンド需要に支えられここ数年、年率4～5%の伸びを示している。ネット販売・百貨店・GMS(量販店)を中心に売上は拡大しているが、街中の小売店は、全国的に苦戦を強いられている。化粧品大手S社では需要に生産が追いつかず、品切れが発生している状況。消費税増税を控え7月～9月は売上増加が期待できるが、その後は停滞を予想。」とのコメント。

『自転車』…「高齢者による自動車運転加害事故が続く中、電動自転車の問い合わせ及び需要が見受けられるが、秋には増税を控え需要増は望めない。」「2019年10月1日から静岡県自転車条例により、自転車保険等への加入が義務化される。」との情報。

『自動車』…「令和初の5月の新車販売市場は、新元号の登録・届出を望むユーザーが台数の伸びに貢献し、好スタートを切ったとの事。新元号に伴い好調となった国内市場だが、期待値に比べ低調となっている現状である。今後更なる需要喚起策が重要になりそう。」との声。「バス事業業界では、人口減少とともに緩やかに需要が減少してきている。オリンピックまでは、インバウンドの需要も見込めるが、オリンピック終了後はとても不安である。」との回答。

『燃料小売』…「過当競争が激しくなり、厳しい状況。」とのこと。

『その他』…「ららぽーと沼津のオープンは、当地域の商業者にとっては脅威を感じる。」「富士駅直結のマンションの1～2階のテナントは未だ空室である。」「当地域での人手不足の影響がこの先、危惧される。」「当市に交流人口が増えるよう(田子の浦港付近開発など)計画的な観光施策を打って欲しい。」「大型商業施設に人が集まる習慣が定着し、商店街が疲弊の一途、駅前街区の再開発に期待する。」「市街化区域内において宅地化が進んでいる。」「御朱印ツアーが商工会議所主催で開催されると新聞等に掲載されていたことを明るく捉えている。」とのコメント。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	0.0	45.0	55.0	▲55.0	上 昇
売上高	20.0	40.0	40.0	▲20.0	下 降
採 算	10.0	45.0	45.0	▲35.0	下 降

## 【サービス業】 景気ムード…【低調】

『飲食』…「飲食業界の内、回転寿司・ファミリーレストラン等の需要は堅調。居酒屋・料理店は、なお厳しい状況。」「葬祭事業は増々減少傾向にあり、家族葬が増加のため葬儀後の祓いの膳の減少が売上高減少の大きな要因となっている。葬儀の在り方として参列者が少ない、葬儀費用を低く抑えることができる家族葬が増加傾向にある限り、大苦戦を強いられると思われる。」との声。

『クリーニング』…「掃除用具等の事業所需要は、減少幅が下げ止まり状況であるが、家庭用需要は引き続き減少傾向。消費税率改正によりマイナス影響を懸念。」「クリーニング資材の値上げが続いている。」とのコメント。

『運輸・倉庫』…「燃料価格の上昇が採算を圧迫している。米中の貿易問題も注視している。」「オリンピックまでは需要増が見込まれる。GWの長期連休により5月の売上高は大幅減。」とのこと。

『自動車整備』…「8月までの受注は計画台数を確保できているが、それ以降については非常に厳しいと思われる。」との回答。

『不動産』…「分譲地造成はかなり増加している。要因として、不要な土地（財産）は早めに処分したいという意向と思われる。子供が域外で生活基盤を作り、地元に戻らない傾向も大きな理由。今後、中古住宅も増加し、品質調査（住宅診断）が厳しくなり、対応は法により制度化される見通し。」「依然として分譲地が増え住宅が建ち続けている。当地域でのアンケートでは一戸建てを希望する若者が多いとのこと。」「不動産賃貸であるため、設備老朽化は否めないが借手がいる以上、売上確保は出来る。テナントでは立地場所の有利性は有り、地域で賑わいづくりが出来れば出店者は増加する。まちの活性化には地域の協力が大切だと思われる。」とのコメント。

『求人広告』…「過当競争が継続しており、売上高の減少がみられる。」と回答。

『専門サービス』…顧問先では「全般的には業種により変動があり、特に建設業は好調に上昇、サービス業は下降気味。秋ごろより全般的に下降に推移すると推測。」「建設業関連業種は中小企業の売上高が増加傾向にあり、飲食業に於いては格差が著しく難しい状況にある。経営者の高齢化に伴い廃業が増え、事業承継についても政策的に合致するケースが余り見当たらない。必然的に需給バランス、新時代への対応等厳しい状況が想定される。」との声。

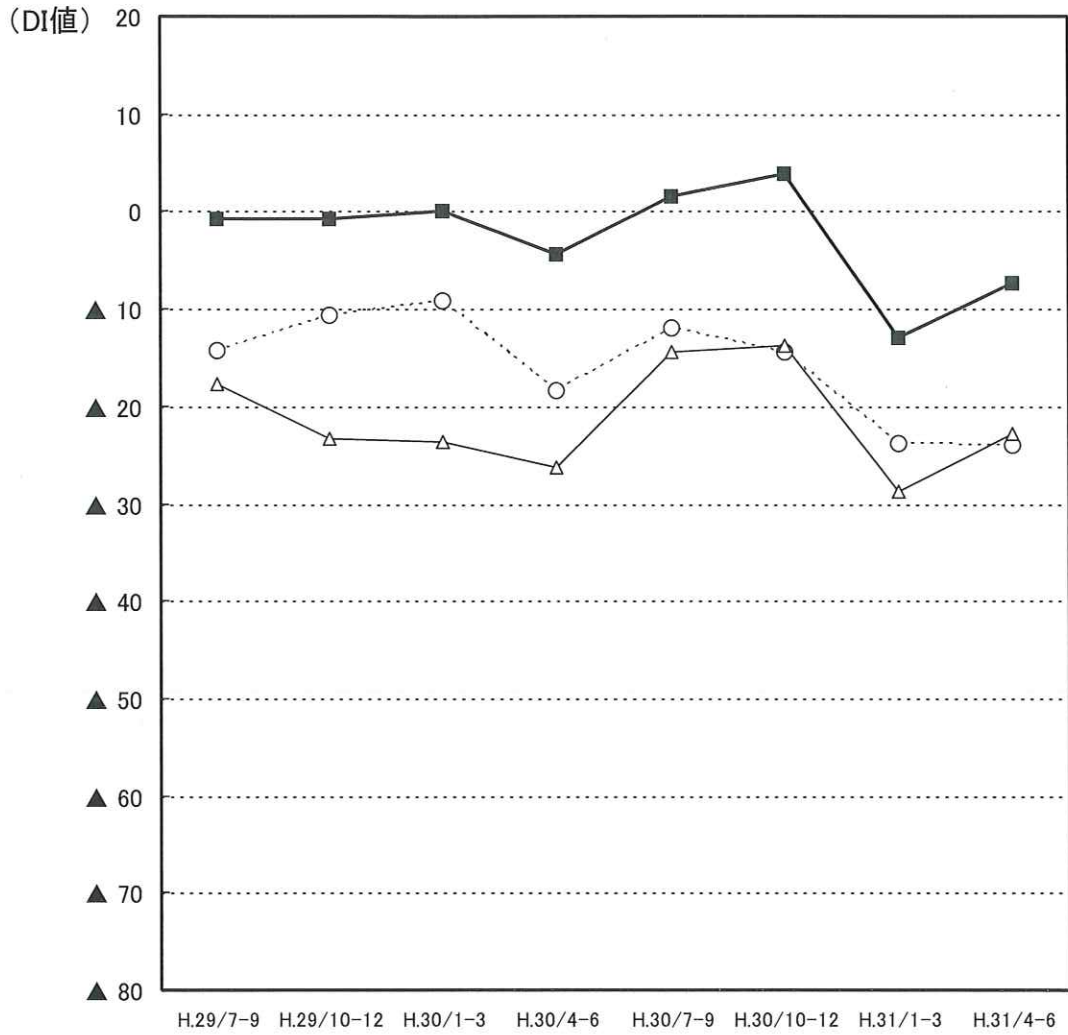
『各種学校』…「価格の値上げ難が継続。シェア率が大きい企業が有利に値上げに踏み切れるので、先ずはシェアの拡大・維持からと思っている。」との見解。

『その他』…「空き家問題がまちづくり団体の会議で話題になる。業界が解消に向けた支援をすることは可能だが、行政と調整を図ることが必要で課題は多い。」「富士本町、富士駅前、新たな店舗の出店があり賑やかになってきたが、来街客数も拡大することを期待している。」との声。「柚木地区では、近年若い世帯が増加傾向、柚木駅周辺も賑やかになって来ている。」「新々富士川橋の橋脚が4本完成し、工事は予定通り進んでいる。」との情報。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	7.7	76.9	15.4	▲7.7	下降
売上高	29.2	41.7	29.2	0.0	横ばい
採算	16.0	52.0	32.0	▲16.0	下降

# 全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上    ○ 業況    ▲ 採算



(調査期間)

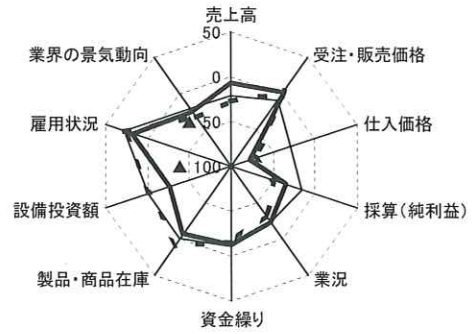


# レーダーチャート

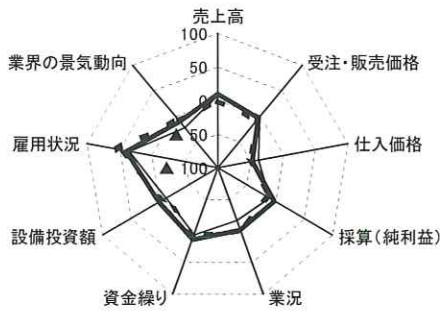
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

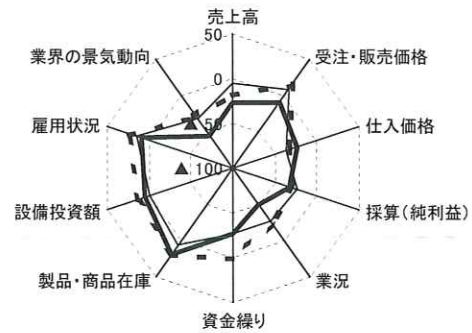
## 【製造業】



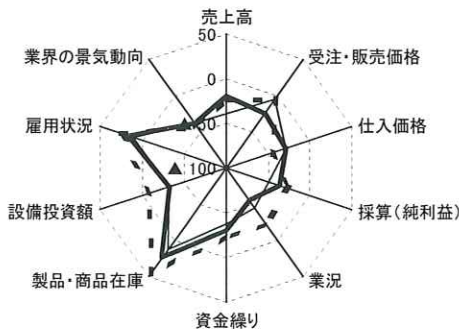
## 【建設業】



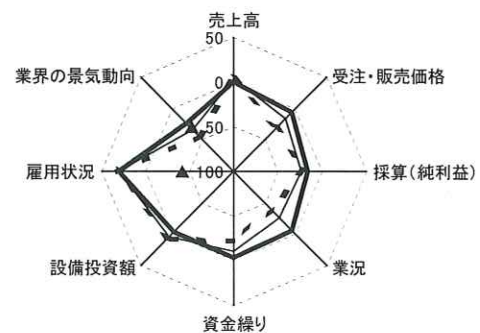
## 【卸売業】



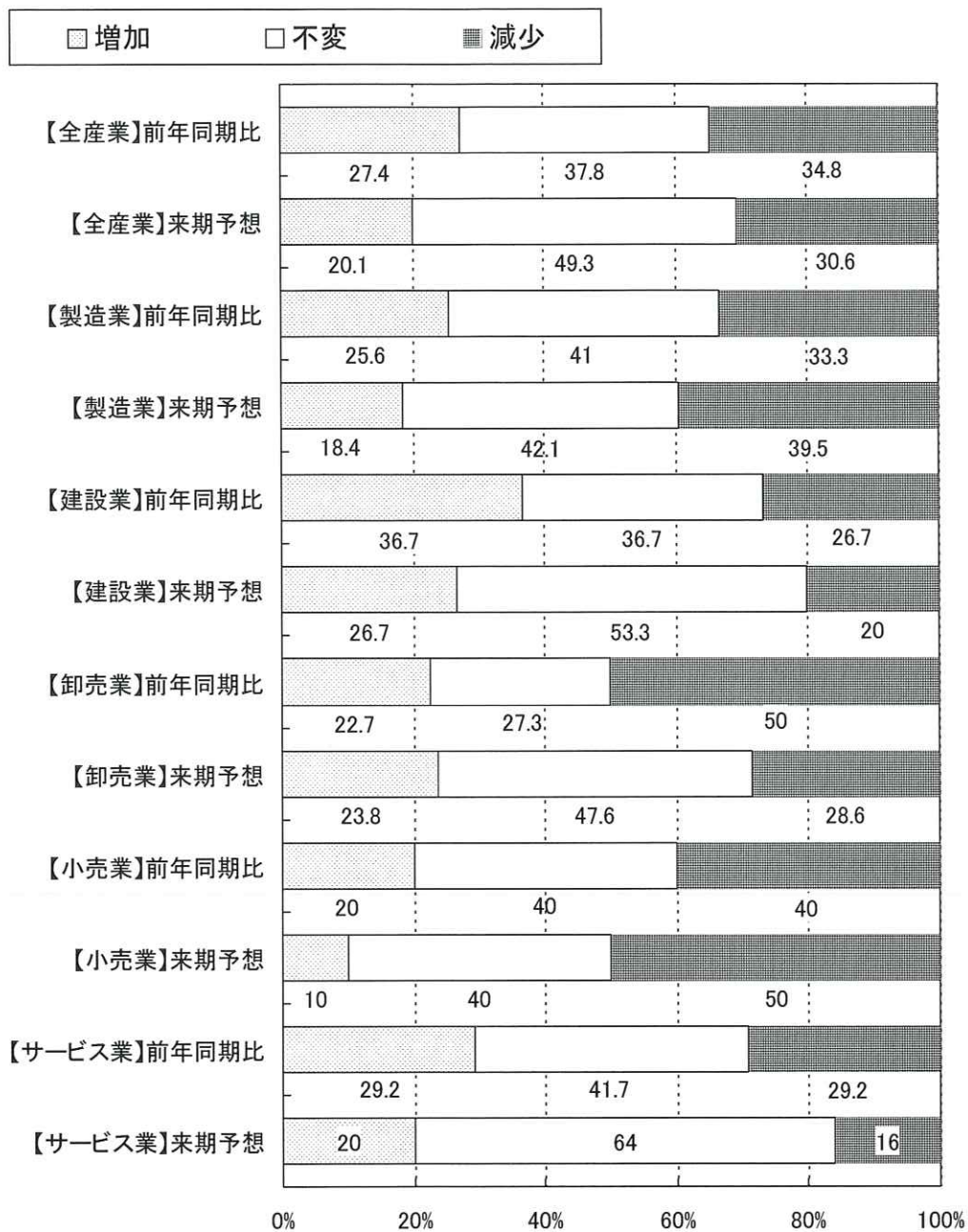
## 【小売業】



## 【サービス業】



## 売上高の前年同期比と来期予測



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 人材不足／設備老朽化</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／売上減に伴う利益減</p> <p>その他 人件費高騰</p>
建設業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 過当競争／人件費高騰／人員不足</p> <p>その他 設備老朽化</p>
卸売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 人材不足／設備老朽化</p> <p>その他 過当競争／その他の経費増大</p>
小売業	<p>1 位 売上減に伴う利益減</p> <p>2 位 売上、利益減による資金圧迫</p> <p>3 位 その他の需要の低迷</p> <p>その他 設備老朽化</p>
サービス業	<p>1 位 設備老朽化</p> <p>2 位 販売価格値上げ難／人件費高騰</p> <p>3 位 過当競争／人員不足</p> <p>その他 売上減に伴う利益減／人材不足</p>

## 最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2019年6月10日）

日本銀行静岡支店  
照会先 TEL 054-273-4106

### （概況）

県内の景気は、一部に弱めの動きがみられるが、緩やかな拡大を続けている。最終需要の動向をみると、設備投資は増加が続いている。また、公共投資は着実に増加している。個人消費は雇用・所得環境が緩やかに改善する中、持ち直しの動きが続いている。一方、住宅投資は貸家を中心に弱めの動きとなっている。また、輸出は海外経済減速を受けて増勢が鈍化している。

こうした下で、企業の生産は増勢が鈍化している。

雇用・所得環境をみると、労働需給は引き締まった状態が続いているほか、所得は緩やかな増加が続いている。

消費者物価（除く生鮮食品）は前年を上回っている。

### 1. 需要項目別の動向

- (1) 個人消費・・・雇用・所得環境が緩やかに改善する中、持ち直しの動きが続いている。百貨店・スーパー売上高は、季節商品を中心にやや弱めの動きとなっている。乗用車新車登録台数・販売台数は、一部で新車投入効果が現れているが、全体としては弱めの動きとなっている。コンビニエンスストア売上高は、緩やかに増加している。家電販売額は増加している。ドラッグストア売上高は、着実に増加している。旅館・ホテルの宿泊数は、緩やかに増加している。
- (2) 公共投資・・・着実に増加している。（公共工事請負金額前年比：19/3月▲11.4%⇒4月+32.7%）
- (3) 設備投資・・・新たな需要の獲得や次世代技術の開発等に向けて、能力増強投資、研究開発投資等の増加が続いている。（設備投資額前年度比<短観>：18年度計画+11.4%⇒19年度計画+5.0%）
- (4) 輸出・・・海外経済減速を受けて増勢が鈍化している。（輸出額前年比：19/3月▲8.0%⇒4月▲9.7%）  
中国向けの自動車部品や金属加工機等の減少から、増勢が鈍化している。
- (5) 住宅投資・・・貸家を中心に弱めの動きとなっている。（新設住宅着工戸数前年比：19/3月+10.7%⇒4月▲7.9%）

## 2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産・・・増勢が鈍化している。(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比:19/2月▲2.8%⇒3月+4.5%<速報>)

自動車・同部品は、増勢が鈍化している。二輪車・同部品は、低調な動きが続いている。食料品は、横ばい圏内の動きとなっているほか、電気機械は、増加している。化学は、増勢が鈍化している。はん用・生産用・業務用機械は、弱めの動きとなっている。紙・パルプは、横ばい圏内の動きとなっており、楽器は、持ち直している。

(2) 雇用・所得・・・労働需給:有効求人倍率、新規求人倍率は高い水準にあり、引き締まった状態が続いている。雇用者所得:緩やかな増加が続いている。(有効求人倍率:19/3月1.67倍⇒4月1.61倍)

一人当り名目賃金は、増勢が鈍化している。常用労働者数は着実に増加している。

(3) 物価・・・消費者物価指数(除く生鮮食品)は前年を上回っている。(指数・前年比:19/3月+0.3%⇒4月+0.5%)

## 3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産・・・件数、負債総額ともに総じて落ち着いている。

企業倒産(19/5月、負債総額10百万円以上)をみると、件数(17件<前年比:▲29.1%>)、負債総額(18億円<同:▲39.7%>)

(2) 預金・・・概ね前年並みとなっている。(前年比:19/3月末+0.3%⇒4月末+0.5%)

(3) 貸出・・・減少している。(前年比:19/3月末▲1.6%⇒4月末▲2.2%)

(4) 貸出約定平均金利(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース)は前月比低下した。(19/3月1.885%⇒4月1.844%)。

以 上